

山形文化遺産防災ネットワークの活動報告 2023 (令和5) 年

植松 暁彦

講演会



5月27日(土)令和5年度総会と研修会を開催。山形文化遺産防災ネットワーク(通称:山形ネット)の立ち上げに携わった松田泰典氏(現・東洋美術学校 保存修復科 教育研究スーパーバイザー)をお招きし、当時の経緯や思いについてご講演いただいた。山形ネットは設立から15年が経ち、その間メンバーも大きく入れかわり、当時を知る人は少なくなっている。今後の山形ネットの活動の方向性を考えるうえで、いま一度そのはじまりをふり返りたいと思いお越しいただいた。「山形県の文化遺産を残したい、救いたい」「顔の見えるなんでも聞ける防災ネットワークをつくろう!」…立ち上げメンバーの文化財“愛”、熱い思いがあふれるお話だった。15年でメンバーも環境もかわったが、その“愛”を引き継ぎながら、今後も自分たちにできることをゆるやかに続けていこうと再認識した。また、川崎市市民

ミュージアムの文化財レスキューについても、現状とのプロジェクトの取り組みをご紹介いただいた。

午後の部では、東洋美術学校の「マンガ原画のアーカイブ」と山形大学を中心とした「山形アーカイブ」をテーマに活動を報告。古いものや価値のあるものだけでなく、私たちの身近にあるものも“残したいという意思”があれば平等にアーカイブの対象となる。アーカイブの活用や課題について、参加者も交えて活発なディスカッションが行われた。

研修会

会員のスキルアップと非常時の対応力強化のため、講師を招いた講義や実技の研修会を隔月で開催

- 3/5 襖の下張り剥がし
- 7/8 襖の下張り剥がし
- 9/10、11、12 襖の下張り剥がし 集中作業
- 11/25 歴史文化資料の保存と救済
天野真志(国立歴史民俗博物館)
- 襖の下張り剥がし
- 1/20 襖の下張り剥がし

襖の解体が思ったより進まないの、3日間の集中作業を企画した



陸前高田研修



3月25日(土)岩手県陸前高田市に研修へ。

陸前高田市立博物館では、被災資料の安定化処理について解説するコーナーを見学。山形ネットとして自分たちが関わってきた鳥羽源蔵資料などが博物館にもどり、収蔵され展示されていることを実感した。また、全国の協力団体を紹介するパネルに、山形ネットの名前が記載されているのを見ると感慨深いものがあった。

REKIHAKUへ寄稿

国立歴史民族博物館発行の『REKIHAKU 特集・歴史をつなぐ(2023年10月)』に、人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」の共同研究員である植松が「考古学からみた東日本大震災の文化財レスキュー」をテーマに寄稿。山形ネットをはじめ、これまで参加してきた文化財レスキューでの出来事や感じたことについて、考古学の立場から振り返るとともに、現状の課題やこれからの取り組みについて思いを綴った。

